

令和7年11月17日

鳥取市教育委員会
教育長 河井 登志夫 様

散岐の教育を考える会
会 長 竹内 祐介

要望書

日頃より、散岐地区の子供たちのための教育振興にご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、当地区では近年の少子化の波を大きく受け、保育園園児及び小学校児童数の大幅な減少が顕著になってきました。令和7年度には園児の減少により散岐保育園が休園、散岐小学校においては複式学級となる学年が半分以上となり、教育環境の変化に不安を抱えている保護者が多くいます。散岐小学校区では、令和5年度に「散岐の教育を考える会」を設置し、同年7月に学校・保育園保護者・地域住民に向けて学校適正規模適正配置基本方針の説明会を実施しました。説明会後のアンケートでは、「児童数の減少による学校の統合はやむを得ない」「通学はどうなるのか不安である」などの回答をいただきました。このことについて、散岐の教育を考える会において協議を重ねた結果、統合についてはやむを得ないことだと思うが、統合後の子供たちの通学を含めた学校生活の見通しが不透明のため不安であるとの結論を得ました。子供たちのより豊かな教育環境維持のために不安のない学校の統合・再編について、下記の通り要望をまとめましたので、よろしくお取計くださるようお願いいたします。

記

- 1 河原町内の小学校・中学校の統合、義務教育学校を希望する。
まずは小学校の統合、校舎建築等の目処が立ったら小中一貫校と段階を経てもよい。
- 2 統合小中学校は各地区との距離、施設の利便性を考慮して現在の河原中学校の場所がよい。そのためには、スクールバスの運行など、安心・安全な通学手段が必要であり、確実に確保してほしい。なお、冬季間のバス等の運行において、一部地域（小倉など）を除外しないようにしていただきたい。
- 3 児童クラブの継続的運営など、保護者のニーズに合った対応をお願いしたい。
- 4 校区審議会委員に地域代表者を委嘱するなどし、散岐小学校区及び河原中学校区の民意が大切にされる校区審議会の開催をお願いしたい。

以上